

第3学年道徳学習指導案

日時 平成17年9月28日(水)5校時

対象 3年生(男14名、女17名、計31名)

指導者 高橋 雅子

1、主題名 ほんとうの友だち(友情・信頼、助け合い 2-(3))

2、資料名 ないた赤おに(文溪堂 3年生のどうとく)

3、主題設定の理由

(1) 価値について

学習指導要領第3章 道徳の目標及び内容の第3学年及び第4学年の内容の2「主として他の人とかかわりに関すること。」の(3)に「友だちと互いに理解し、信頼し、助け合う。」とある。この内容は友達関係において基本とすべき精神を述べたものであり、友達との間に信頼と友情及び助け合う精神を育てようとする内容項目である。これは、第1学年及び第2学年の「友達と仲よく、助け合う。」を発展させたものであり、さらに第5学年及び第6学年の「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し合う。」にまで発展していくものである。

友人関係における「理解」とは、相手の気持ちやものの見方・考え方を理解するということである。ところが、それがなかなかできない。自分はどうだから相手もそうであろうとわが思いを相手に遣るといった内面的運動が要求されるからである。「信頼」とは、相手の言行に偽りがないと信じることである。友人関係において、安心して自分の本心を語ったり相談したりできるのは、相手が裏切らないと信頼しているからである。「助け合い」とは、支え合いである。支え合いは、お互いに欠点を持つ存在であるという自覚にたってお互いの欠点をお互いに補い合うこと、お互いの個性を発揮して相手を支え合うということである。このことによって、友人関係は深まる。こうして、友達同士理解し合えばし合うほど、お互いを信頼し助け合うようになる。よりよい生活をするためには、友達を信頼し、支え合って共に苦しみを乗り越えていかなければならないということをわからせることは大切なことと考える。

この期の児童は、学校生活にも慣れ、行動範囲が広がってくる。交友関係も広がり、気の合う友達同士で仲間をつくる傾向がある。そこでこの期に明朗で健康的な友達関係を積極的に育てることが大切である。そのためには、友達同士互いによく理解し合い、信頼し合い、助け合うことの大切さについて自覚を深めていくことは大切であると考えられる。

(2) 児童について

学級の児童は、些細なことでけんかはするがすぐ仲直りをし男女にかかわらず仲がよい。しかし、友達とは、いつも一緒に遊ぶ人とか何かを忘れたときに貸してくれる人と思っている児童が多い。また、気の合うもの同士がグループを作ったり、そのグループから外されたくないのでも一緒にいる児童もいる。なかには、自分の一言が、相手を傷つけているということに気づいていない児童もいる。このような児童に、よりよい学校生活を送っていくためにはその場の雰囲気にならざることを考えさせることは大切なことと考える。

(3) 資料について

ある山奥に住んでいた赤おには、ふもとの人間と仲良くなりたいと立て札を立てるが、こわがってだれも来ない。それを嘆く赤おにに青おにが策を授けて、ひと芝居する。青おには村へ行って暴れ、赤おにが青おにをとりおさえて追いはらう。村人は、赤おにがいいおにだとわかると、安心して近寄るようになり、赤おには満足する。ふとある時、青おにのことが気になって、赤おには久しぶりに青おにの家を訪ねたが、青おには置き手紙をして、旅に出てしまっていた。青おにの自分を思ってくれる優しい心を知って、赤おには泣いた。赤おにと青おにのお互いを思う気持ちから真の友情を考えさせるのに適した資料であると考えられる。

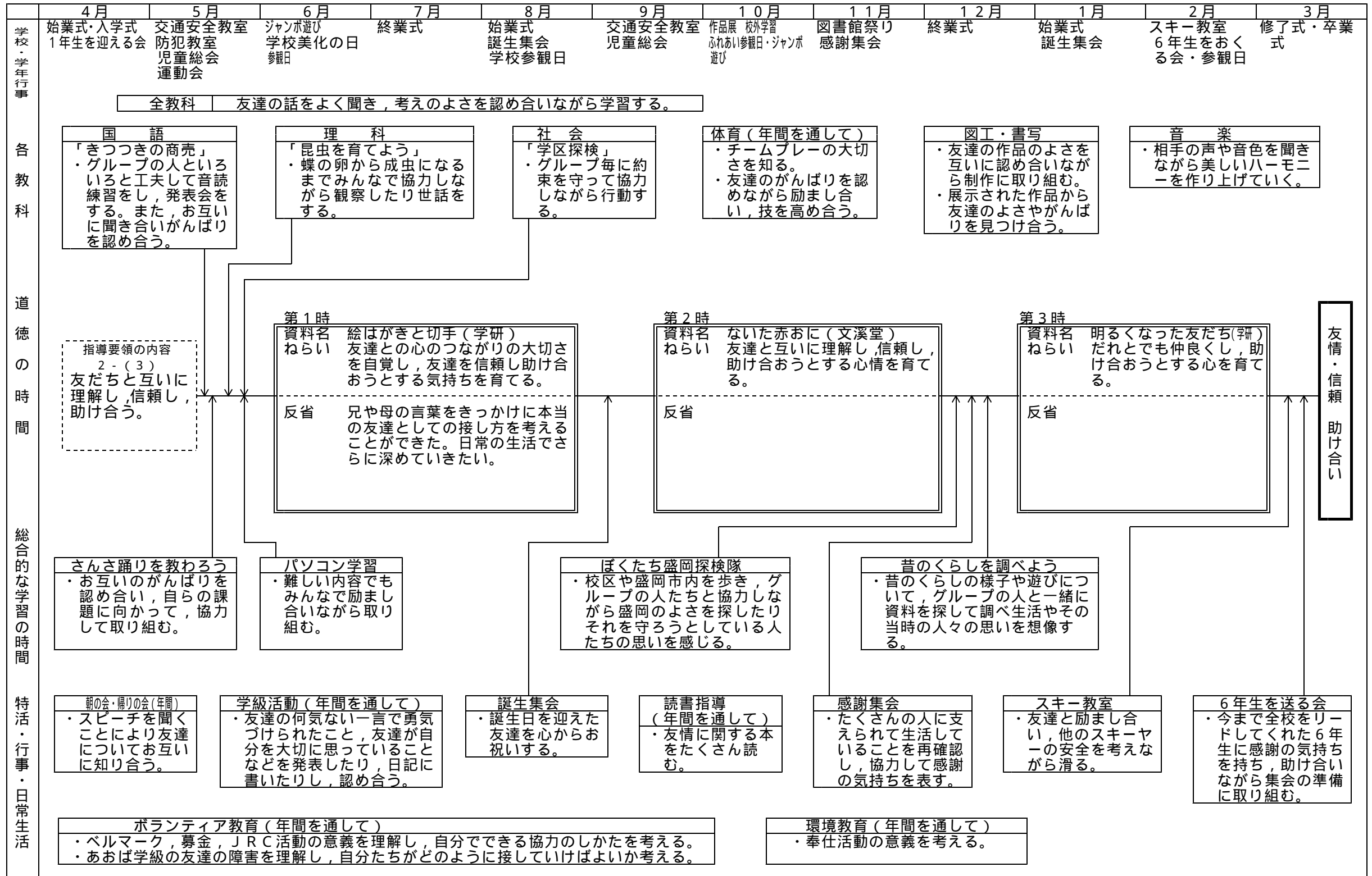
(4) 指導の態度

「気づく」では、それぞれの児童の考えている「友達」について聞き合いながら価値への方向付けをする。「見つめる」では、まず赤おにができることなら人間たちの仲間になり、仲良く暮らしたいという強い願いを持っていることに気づかせたい。その願いがうまく人間に伝わらず憤慨している赤おにの話を聞いて人間と赤おにを仲よくさせようと策を練る青おにの優しさをとらえさせたい。また、青おにが長い旅に出た気持ちを考えさせることにより、赤おにの幸せをどこまでも願う青おにの深い友情をとらえさせたい。「つかむ」では、青おにの手紙を読んで涙を流す赤おにの姿を通して本当の友達についてじっくり考えさせたい。「広げる」では、自分や友達のなかにあるほんとうに友達のことを大切に思っていたこと、されたことを聞き合いながらお互いのよさを見つけていくようにさせたい。「まとめる」では、教師の話を聞くことにより自分もよりよい友達を作っていこうとする気持ちを持たせて終わりたい。

4 全教育活動における本時の位置づけ

3年重点指導項目

2の(3) 友情・信頼、助け合い



5 本時の指導

- (1) ねらい 友達と互いに理解し，信頼し，助け合おうとする心情を育てる。
 (2) 展開の概要

階級	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
気づく 5分	1, 自分にとって友達とは, どんな人というのか話し合う。 みんなにとって, 友達とはどんな人ですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・いっしょに遊んでくれる人 ・困ったときに助けてくれる人 ・気の合う人 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの子の考えている友達について聞き合いながら, 価値への方向づけを図る。
見 つ め る	2, 資料「ないた赤おに」を読み感想を発表し学習課題を確認する。 お話を聞いて, 心に残ったところはどこでしたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・赤おにが, 青おにの手紙を読んで泣いたところ ・青おにが, 赤おにのために旅に出るところ ・青おにが赤おにのために村で大暴れするところ 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の赤おにや青おについてのいろいろな感想を自由に出させたうえで, 課題を提示する。
赤おにと青おにの友情について考えよう。			
つかむ 30分	<p>3, 赤おにと青おにの気持ちについて考え, 話し合う。 赤おには, どんな気持ちから立て札を立てたのでしょうか。</p> <p>青おには, どんな気持ちで「ぼくがふもとの村へ行ってあげよう。」と言ったのでしょうか。</p> <p>青おには, どんな気持ちから置き手紙をして旅にでたのでしょうか。</p> <p>青おにの手紙を読んで涙を流す赤おにの心の中はどんなだったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なんとかして人間の仲間になり, 仲良く暮らしたい。 ・友達ができると楽しいだろうな ・ひとりぼっちはさみしいから友達がほしい。 <ul style="list-style-type: none"> ・赤おにの願いをかなえてあげたい。 ・赤おには本当はいいおになのだということを知らせよう。 ・話を聞いて赤おにがかわいそうに思った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくがいたら, 疑われる。 ・人間と仲よくしてね。 ・ぼくたちはいつまでも友達だから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・もどってきてほしい。 ・青おにに悪いことをした。 ・青おにがこんなにもぼくのことを思っていたなんて知らなかった。 ・青おにはほんとうにいい友達だ。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・立て札を立てる前から, いつもできることなら人間達の仲間になって, 仲良く暮らしたいという気持ちを持っていたことに気づかせたい。 ・自分にとって大切に思っている友人赤おにの願いをなんとかかなえてあげたいと思う青おにの気持ちをとらえさせたい ・赤おにが幸せであることを一番に考える青おにの深い友情をとらえさせたい。 ・赤おには「二度も三度も」「しくしくなみだを流した」という状況から, 自分の身近にこんなに自分のことを思ってくれるすばらしい友だちがいたことにはじめて気づいてなみだを流している赤おにの姿をとらえさせたい。
広 げ る 9分	4, 赤おにや青おにのようにほんとうに友だちのことを大切に思っていてあげたことやしてもらったことを話し合う。 みなさんも, 赤おにや青おにのようにほんとうに友だちのことを大切に思っていてあげたことやしてもらったことはありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・何かの代表をきめるとき, どちらもしやたらかたけれど相手の様子を見るとどうしてもやりたそうだったのでゆずってあげた。 ・水泳の時間に, こわがっている友達がいたので手をさしのべてあげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日記や作文などから例を示してやりながら自分にもそういう経験があったことを思い起こさせたり, 互いに聞き合いながら, 友達の持っているよさに気づかせ自分もそうありたいというあこがれを持つようにさせたい。
ま と め る 1分	5, 教師の話を書く。		<ul style="list-style-type: none"> ・自分もよりよい友達を作っていきたいという気持ちを持たせて終わりたい。

な い た 赤 お に

赤おにと青おにの友情について考えよう。

立て札をたて
ている赤おに
の絵

家が一けん

やさしい、すなおなおに
一人ですまっていた

- ・さびしい
- ・友だちがほしい
- ・人間と友だちになりたい

「ええ、こんなもの、こわしてしまえ。」

「どうしたんだい。
ばかに手あらいことを
して。きみらしくもな
いじゃないか。」

村で大暴れを
することを
提案する
青おにの絵

- ・赤おにがかわいそう
- ・ほんとはいいおになのに
- ・人間にわかってもらいたい
- ・ねがいをかなえてあげたい

村で暴れる
青おにをぶつ
赤おにの絵

人間の友だちができました。

たびに出た

- ・うたがわれる
- ・かなしませたくない
- ・いつまでも人間となかよく
どこにいても友だちだ

赤おにが、青お
にの家に行つて
置き手紙を読む
絵

青おにの手紙

だまって二度も三度も
しくしくと
なみだを流してなきました

- ・悪いことをした
- ・もどつてきてほしい
- ・ほんとうにいい友だちだ
- ・こんなにぼくのことを考えてくれていたんだ

ほんとうの友だち

7 <資料構造図>

資料名「ないた赤おに」(出典 文溪堂 3年生のどうとく)

ねらい 友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする心情を育てる。

< あらすじ > ----- < 心の動き > ----- < 発問 >

(赤おにの気持ち)

(青おにの気持ち)

1 「ドナタデモ オイデクダサイ」と立て札を立てる赤おに	<ul style="list-style-type: none"> ・なんとかして人間と仲良くなりたい。 ・友達ができると楽しいだろうなあ。 ・ひとりぼっちはさみしいから友達がほしいなあ。 		赤おにはどんな気持ちから立て札を立てたのでしょうか。
2 立て札をこわしている赤おにのところへやってきて、村で大暴れすることを提案する青おに	<ul style="list-style-type: none"> ・人間はどうして信じてくれないのだろう。 ・わけもなくはらが立ってきた。 ・くやしいなあ。 ・青おににすまない。 ・そんなにいうならやってみようかなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤おにがかわいそう。 ・ほんとうはいいおになのに。 ・何とかねがいをかなえてあげたい。 	青おにはどんな気持ちで「ぼくがふもとの村へ行って、あばれよう。」と言ったのでしょうか。
3 村で暴れる青おにをぶつ赤おに	<ul style="list-style-type: none"> ・青おにくん、ごめん。 ・ほんとにこんなことしていいのかな。 ・うまくいくかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤おにを人間たちに信用させた。 ・赤おにを人間と友達にしてあげたい。 ・友達だから助けてあげたい。 	
4 村人と楽しくつきあいをする赤おに	<ul style="list-style-type: none"> ・人間と友達になることができうれしい。 ・さびしいことはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねがいがかなってよかったなあ。 ・芝居をしたかいがある。 	
5 赤おにに置き手紙をして旅に出る青おに		<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくがいると疑われる。 ・ずっと赤おにが人間と友達でいられるといいな。 	青おにはどんな気持ちから置き手紙をして旅に出たのでしょうか。
6 青おにの手紙を読んで涙を流す赤おに	<ul style="list-style-type: none"> ・青おにがこんなにぼくのことを思ってくれていたなんて知らなかった。 ・ほんとうにいい友達だ。 ・青おにに悪いことをした。 ・もどってきてほしい。 		青おにの手紙を読んで涙を流す赤おにの心の中はどんなだったでしょう。